

第三期中間

二〇一八年四月一日～九月三〇日

事業報告書

株式会社クレス



トップメッセージ

株主のみなさまには日頃から格別のご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。中間期の業績と取組みについて、ご報告いたします。

当期の経営方針

期待を超えて、次のステージへ

クレスコグループは、事業機会を着実に取込み、さらなる飛躍を果たすため、2016年4月に5ヶ年のビジョン『CRESCO Ambition 2020』をスタートし、業績の達成、重点施策の具現化、企業価値の向上を目指しています。

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～ 『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

当期は経営方針に『『CRESCO Ambition 2020』に沿った経営』『ビジネス品質と生産性の向上による確実な成長』『M&Aによるグループビジネス規模の拡大』を掲げ、11項目の対処すべき課題に取組み、事業を推進しています。

当期の課題

- 鉄板品質の提供
- 生産性の追求
- リソース戦略の強化
- 人材の採用と育成
- 新技術の研究・開発
- グループ連携の強化
- 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
- 新規ビジネスの組成
- コーポレートガバナンスの推進
- 健康管理と働き方改革の推進
- ダイバーシティへの取組み

当中間期の経営環境

海外情勢に起因する景気の不透明感や為替や株式相場の動向、自然災害など、懸念事項は多々ありましたが、個人消費の回復や底堅いインバウンド需要、企業の収益性改善等が後押しし、経営環境は、回復基調が継続しています。また、企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みは、生産性改善に寄与するソフトウェア開発、システム開発のさらなる需要を喚起しています。

クレスコグループは、アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組込み技術のコア技術に、人工知能(AI)、ロボティクス、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の先端技術を加えた幅広い事業領域を持っており、優位性を発揮できる機会が到来しています。反面、エンジニア不足は受託開発事業において、業績拡大のボトルネックになっています。

当中間期の取組み

第1四半期に発生した不採算案件の収束に向けた対応をはじめ、市場の変化に即した顧客ポートフォリオおよび事業体制の見直しを図るとともに、先端技術を取込んだ新規事業・サービスの開発に注力し、グループ連携の強化や品質管理の再徹底を通じて、リソースに応じた適正な受注量の確保と顧客満足度のさらなる向上に努めました。また、全社的な生産性改善活動(自社向けのイノベーション活動)をはじめ、受注単価の引上げや選別受注を積極的に実施し、業績の巻返しに取組んでおります。

その他、当中間期の取組み実績は、本書の「Topics」でご紹介しています。また、エバンジェリスト活動の一環として、技術研究の成果発表や各種サービス・ソリューションのプロモーション活動を推進しています。活動内容は、当社ホームページのニュースや「エンジニアブログ」でご紹介していますので、ご覧ください。

※エンジニアブログ：<https://www.cresco.co.jp/blog/>

代表取締役 会長
岩崎 俊雄

代表取締役 社長執行役員
根元 浩幸

決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高4.8%増、営業利益4.4%減、経常利益2.0%増、純利益7.0%減の増収減益。
- ◆ソフトウェア開発事業：第1四半期に発生した不採算案件の対応に注力。事業ポートフォリオの見直し、リソースのシフトを実施。「金融」はメガバンクの大型案件が一段落した影響が大きく、前年同期比でマイナス。「公共サービス」は旅行業および人材サービス向けの案件増加により、前年同期比で増加。「流通・その他」は子会社「ネクサス」を連結した影響により、前年同期比で増加。
- ◆組込み型ソフトウェア開発事業：受注単価の見直しや生産性改善の取り組み、開発体制の強化が奏功。「通信システム」はスマートフォン関連のプロジェクトが微増、現体制を維持。「カーエレクトロニクス」は主力のインフォテインメント系、表示系が好調。「情報家電等・その他」は、テレビ、カメラ、AIスピーカー等のデジタル情報家電のほか、子会社「ソースリー」の制御系開発（鉄道、電気関連）が好調。

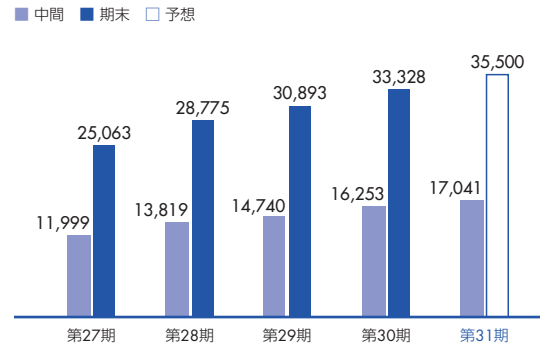
今期の見通し

2018年度後半の経済見通しは、地政学的リスクや米中経済政策など、先行きの不透明感が依然として拭いきれないものの、基調としては拡大傾向です。9月の日銀短観でも、今後の設備投資の活況を示唆しており、中でもソフトウェアの投資額が引き続き拡大する傾向です。業種、業態によって濃淡はあるものの、国内企業の業績が、概ね好調に推移していることから、今後も豊富な手元資金をIT投資に振り向ける企業が増加すると予測しております。また、情報サービス産業全体の動向は、企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実に見込まれます。

当社の主要セグメントで特に成長が見込まれる分野は、ソフトウェア開発事業では人材、旅行、物流で、組込み型ソフトウェア開発事業ではカーエレクトロニクス、情報家電です。各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込んでいます。基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する人工知能やRPA (Robotic Process Automation: ロボットによる業務自動化) による生産性向上を目的とするシステム、ハードウェア運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込んでいます。

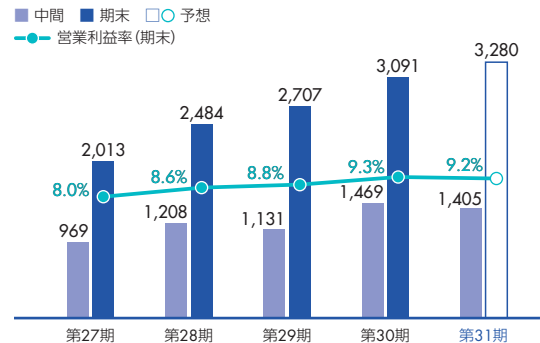
売上高

170億41百万円



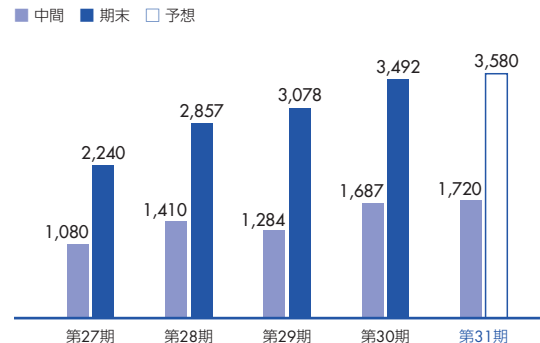
営業利益・営業利益率

14億5百万円



経常利益

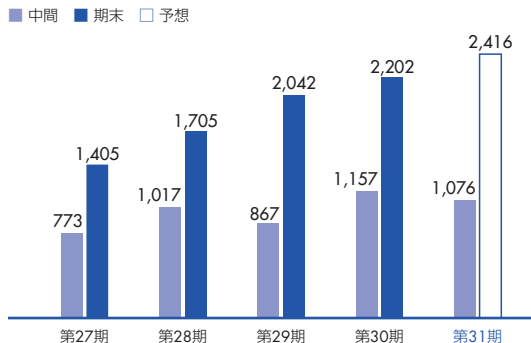
17億20百万円



連結業績ハイライト

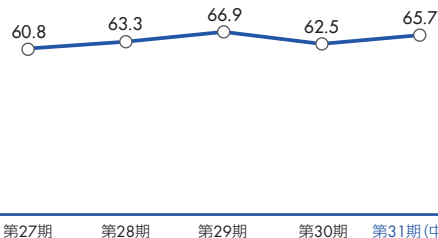
純利益 (親会社株主に帰属)

10億76百万円



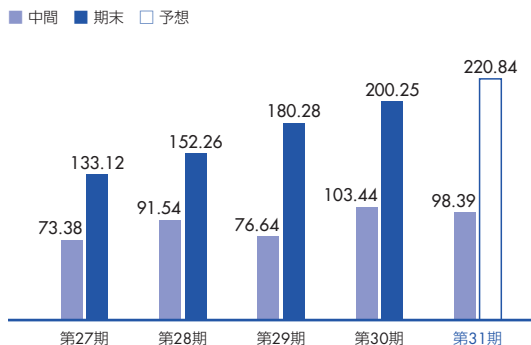
自己資本比率

65.7%



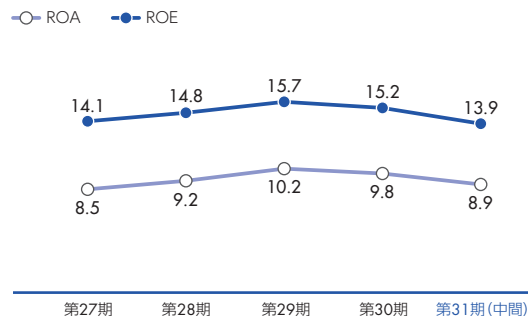
1株当たり純利益

98.39円



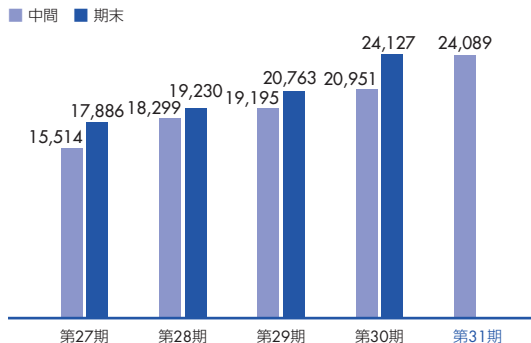
ROA & ROE

ROA 8.9%
ROE 13.9%



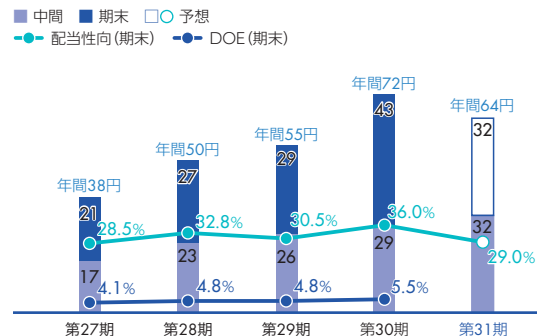
総資産

240億89百万円



1株配当金・配当性向・DOE

1株配当金 **32円**

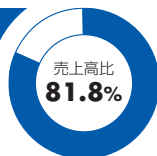


連結業績ハイライト

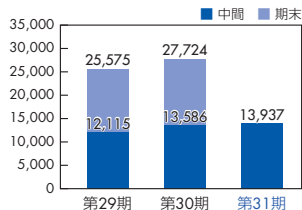
セグメント別概況

ソフトウェア開発

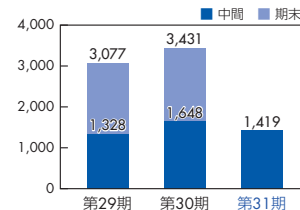
売上高 **139億37百万円**
営業利益 **14億19百万円**



売上高 (百万円)

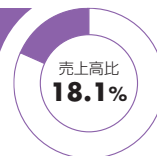


営業利益 (百万円)

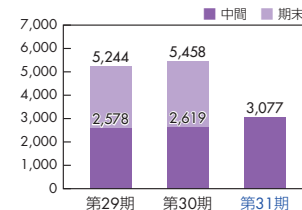


組み込み型ソフトウェア開発

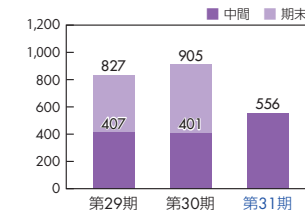
売上高 **30億77百万円**
営業利益 **5億56百万円**



売上高 (百万円)

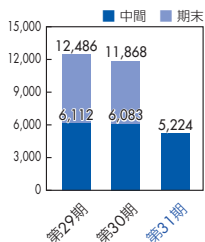


営業利益 (百万円)

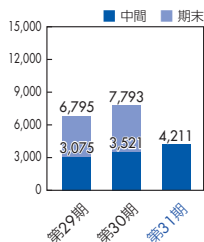


業種別売上高 (百万円)

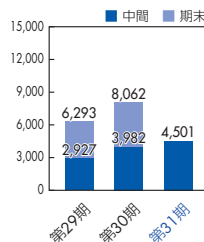
〈金融〉
銀行、保険 など



〈公共サービス〉
旅行、人材、物流、航空、鉄道、
電力、放送、医療 など

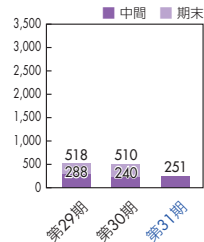


〈流通・その他〉
小売、不動産、通信、
メーカー など

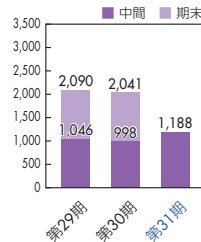


分野別売上高 (百万円)

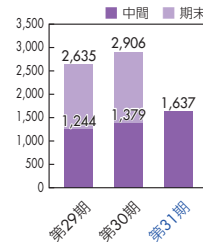
〈通信システム〉
携帯情報端末 など



〈カーエレクトロニクス〉
デジタルメーター、
センターディスプレイ など

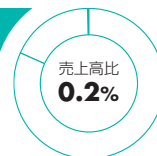


〈情報家電等・その他〉
デジタル家電、医療機器、
制御システム など

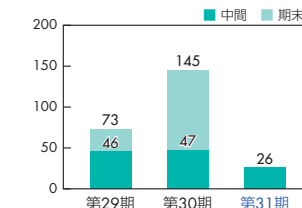


商品・製品販売

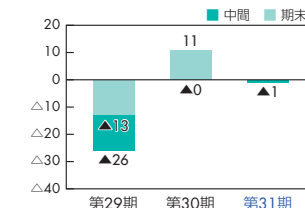
売上高 **26百万円**
営業利益 **▲1百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社(単体)の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に、継続的に実現することを目指してまいります。

私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組み込み技術

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸にしなが

ら、さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組み込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると

40年近く。他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

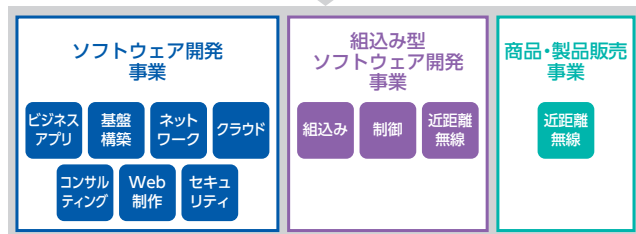
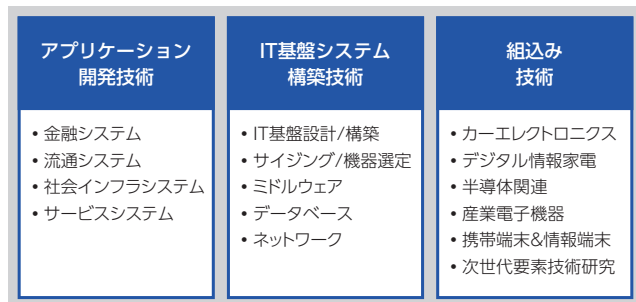
品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え、成長し続けてまいります。

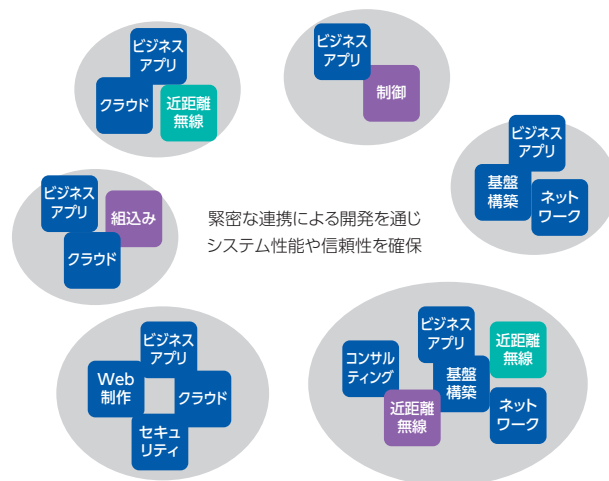
社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味を持つ「CRESCO」を社名としております。

クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



Topics

RPAプラットフォームの販売契約を締結

アメリカのUiPath社様と認定リセラー・パートナー契約を締結し、RPA(Robotic Process Automation:ロボットによる業務自動化)プラットフォーム「UiPath」の日本国内向け販売を、2018年7月から開始しました。

昨今の「働き方改革」により、人間の労働を補完・効率化し、業務自動化を実現する、RPAや人工知能(AI)への注目度が高まっています。判断を伴わない単純作業や整理されたデータからなる定型業務をRPAに置換えることで、業務を自動化・効率化できます。さらに、人工知能による「自然言語解析」「機械学習」「音声解析」「画像解析」と組み合わせることで、大量の情報を基にした分析や、未来予測などの付加価値を生み出すことができるようになります。

クレスコはRPAや人工知能などの先端技術に早くから取り組み、業務自動化・効率化によってお客様の経営課題・業務課題の解決を支援しています。

子会社「アイオス」の強化

2018年4月1日付けで子会社「アイオス」は、同子会社「アプリケーションズ」を統合しました。統合による事業の一元化で、開発体制および顧客基盤を強化して、抜本的な効率化と事業改革のスピード化を図ります。

※アイオスのホームページ
<https://www.ios-net.co.jp/>



医療系大学と眼科病院との共同研究成果を学会発表

当社の「技術研究所」は、北里大学医療衛生学部視覚機能療法学専攻様と、宮崎県都市にある宮田眼科病院様と進めている共同研究「角膜形状解析画像の機械学習を用いた分類について」の研究成果の論文を、2018年7月24日の電子情報通信学会で発表しました。円錐角膜という疾患は、角膜の中央付近が薄くなり、円錐状に前方へ突出して、近視や乱視などの視力低下をもたらすため、進行して重症化した場合は、角膜移植を行う必要があります。原因は詳しくわかっておらず、進行度を予測することが難しい疾患です。

疾患の初期段階の診断に使用する前眼部光干渉断層計による形状解析画像に対して、共同研究の成果を応用することで、疾患の進行度を適切に判断し、治療や進行の予防に有益な早期診断に、貢献できるものと考えています。

関西地区の強化

2018年4月1日付けで子会社「メクゼス」は、子会社「アイオス」の関西営業所を統合しました。関西地区の事業を一元化することにより、戦力の集中、開発効率の向上、重複機能の統合、経営の効率化を図ります。

※メクゼスのホームページ
<http://www.mexess.co.jp/>



「大阪事業所」の開設

2018年4月1日付けで大阪市中央区に、「大阪事業所」を開設しました。子会社「メクゼス」の本社と隣接しており、同社と協力して、関西地区の営業を強化することで、お客様へのサービス向上と事業機会の更なる創出に繋がります。

人の持つ自由な意欲を生かすことができる会社へ

人事・給与・ワークフロー関連のパッケージソフトウェアの設計・開発を得意とする「アルス株式会社」が、2018年10月1日付



だけでクレスコグループに加わりました。「アルス」は、日本アイ・ビー・エム株式会社様の認定コアパートナーとして同社と連携しながら活動を進め、開発したパッケージソフトウェアは大企業・中堅企業の約200社に採用されています。今年度、創立31年目を迎え、一度も赤字決算を出すことなく成長を続けており、「人の持つ自由な意欲を生かすことができる会社」を目指しています。

※アルスのホームページ

<http://www.arsweb.co.jp/>

自己株式の活用プログラムの終了

2017年12月から進めていました、自己株式を活用した第三者割当により新株予約権を発行するプログラム(第4回～第6回の全3回)を、2018年10月10日付けで終了しました。

IT業界は、第3のプラットフォーム(クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術)に、人工知能、ロボティクス、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の先端技術が加わり、急激に変化しています。クレスコグループが成長を続けるために、M&Aおよび資本・業務提携の推進、開発体制の強化および効率化、研究開発等への積極的な投資を通じて、先端技術の獲得や事業領域の拡大を図るための資金調達を目的としてプログラムを実施していました。

第4回の権利行使は全て完了し、合計783,196,000円の資金調達を行いました。その後、当社の株価が新株予約権の下限行使額を下回る水準で推移しており、第5回・第6回の行使が見込めない状況のため、残存の新株予約権を全て取得し、消却しました。なお、第4回で調達した資金は、子会社「ネクサス」と「アルス」の株式取得に充当しました。

個人投資家向け会社説明会

当期はこれまでに、個人投資家向け会社説明会を全5回開催しました。一部の説明会では音声や動画を収録し、後日、公開しています。

- 7月7日(土) 東京 日本インタビュー新聞社様主催 [音声あり]
- 7月24日(火) 東京 東京IPO様主催 [動画あり]
- 8月30日(木) 名古屋 日本証券新聞社様主催
- 10月23日(火) 岐阜 日本証券新聞社様主催
- 10月26日(金) 神戸 マジカルポケット様主催

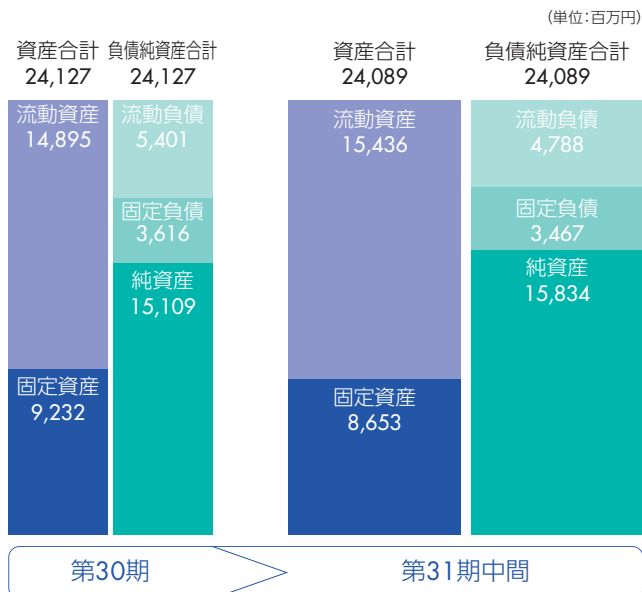
今後は、2019年1月に日本インタビュー新聞社様主催の説明会を、3月に東京で大和インベスター・リレーションズ様主催の説明会を行う予定です。

ご参加いただいたみなさまからは、「受託開発会社のことがよく理解できた」とのお声をいただいております。開催が近くなりましたら、当社ホームページでお知らせいたしますので、ぜひ、ご参加ください。

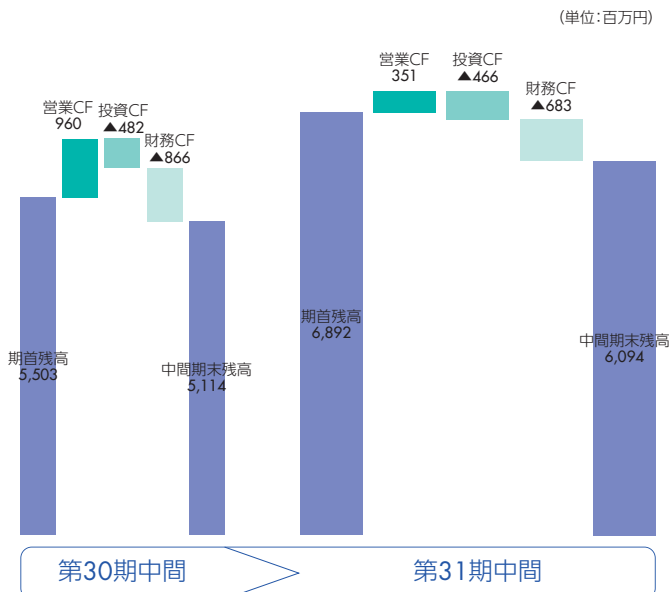
※個人投資家向け会社説明会のページ

<https://www.cresco.co.jp/ir/individual/briefing.html>

■ 貸借対照表の概要



■ キャッシュ・フロー計算書の概要



■ 流動資産

5億41百万円
(前年度末比)

現金および預金が7億98百万円減少したものの、有価証券が8億84百万円、受取手形および売掛金が1億46百万円、未収入金が1億19百万円、仕掛品が1億16百万円それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べて5億41百万円増加し、154億36百万円となりました。

■ 固定資産

5億79百万円
(前年度末比)

投資有価証券が6億5百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて5億79百万円減少し、86億53百万円となりました。

■ 流動負債

6億13百万円
(前年度末比)

未払金が2億73百万円、未払消費税等が1億36百万円、未払法人税等が71百万円、賞与引当金が67百万円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べて6億13百万円減少し、47億88百万円となりました。

■ 固定負債

1億48百万円
(前年度末比)

長期借入金が1億56百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて1億48百万円減少し、34億67百万円となりました。

■ 純資産合計

7億24百万円
(前年度末比)

利益剰余金が6億5百万円、その他有価証券評価差額金が1億15百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて7億24百万円増加し、158億34百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が5億68百万円、売上債権の増加額が1億44百万円、未払消費税等の減少額が1億34百万円、役員退職慰労引当金の減少額が1億11百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が16億3百万円あったことにより、3億51百万円の収入(前年同期9億60百万円の収入)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の償還による収入が5億55百万円、投資有価証券の売却による収入が4億66百万円、有価証券の売却による収入が4億66百万円、有価証券の償還による収入が3億80百万円あったものの、有価証券の取得による支出が15億7百万円、投資有価証券の取得による支出が6億29百万円、無形固定資産の取得による支出が1億53百万円あったことにより、4億66百万円の支出(前年同期4億82百万円の支出)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額が4億70百万円、長期借入金の返済による支出が1億49百万円あったことにより、6億83百万円の支出(前年同期8億66百万円の支出)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
決算関連資料を
掲載しております。
ご利用ください。



<https://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役 会長
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



代表取締役 社長執行役員
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



取締役 専務執行役員
事業部門、技術研究所 管掌
兼 事業開発本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



取締役 常務執行役員
財務経理本部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役 常務執行役員
管理部門 管掌
兼 経営管理本部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生



社外取締役
福井 順一 Jyunichi Fukui
1953年11月5日生



取締役 常勤監査等委員
丹羽 蔵王 Kuroo Niwa
1955年11月13日生



社外取締役 監査等委員
臼井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生

監査等委員

執行役員



社外取締役 監査等委員
佐藤 治夫 Haruo Sato
1956年11月27日生



常務執行役員
第一事業本部長
菊池 淳 Atsushi Kikuchi
1960年2月2日生



常務執行役員
第二事業本部長
藤谷 栄樹 Masaki Fujiya
1959年10月23日生



執行役員
事業開発本部副本部長
兼 技術研究所長
丸山 規行 Noriyuki Maruyama
1961年6月19日生



執行役員
第二事業本部副本部長
兼 第二ビジネスソリューション事業部長
下川 恭正 Yasumasa Shimokawa
1967年3月27日生



執行役員
事業開発本部副本部長
兼 サービスコンピテンシー統括部長
工藤 博徳 Hironori Kudou
1965年3月21日生



執行役員
グループ事業推進本部長
高石 哲 Satoshi Takaishi
1962年5月26日生



執行役員
第二事業本部副本部長
兼 エンベデッドソリューション事業部長
粉川 徳幸 Noriyuki Kogawa
1963年11月24日生

1 株式会社クレスコ 本社

2 札幌事業所 4 名古屋事業所
3 長岡事業所 5 大阪事業所

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- クラウド
- コンサルティンク
- 組込み
- 近距離無線

連結子会社

6 クレスコ・イー・ソリューション株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ
- クラウド
- コンサルティンク

7 クレスコ ワイヤレス株式会社

事業内容

- 近距離無線
- 近距離無線

8 株式会社アイオス 本社

9 静岡営業所 APL開発センター

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築

10 クレスコ九州株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ

11 クレスコ北陸株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ

12 株式会社シースリー

事業内容

- 制御
- 組込み

13 株式会社クリエイティブジャパン

事業内容

- 基盤構築
- ネットワーク
- セキュリティ
- ビジネスアプリ

14 株式会社メクス 本社

15 東京支社

事業内容

- Web制作
- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティンク

16 株式会社エヌシステム

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティンク

17 株式会社ネクサス 本社

18 北海道支店

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティンク

19 アルス株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティンク

関連会社

20 株式会社ウェイン

事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティンク

21 ビュルガーコンサルティング株式会社

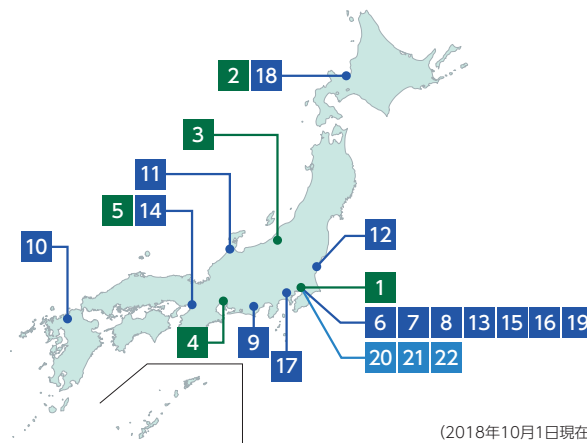
事業内容

- コンサルティンク

22 株式会社イー・アイ・エム スタッフ

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築



(2018年10月1日現在)

株式の状況

(2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	10,940,123株
	(自己株式1,059,877株を除く)
株主数	3,230名

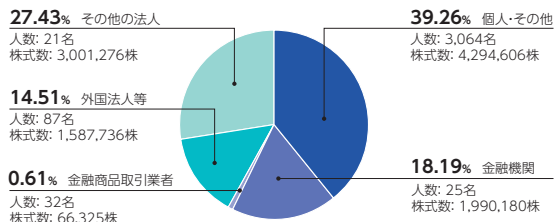
大株主

(2018年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	28,396	26.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,626	8.82
浦崎 雅博	5,818	5.33
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	5,700	5.22
佐藤 和弘	4,163	3.81
クレスコ従業員持株会	3,931	3.60
田島 裕之	3,557	3.26
岩崎 俊雄	3,048	2.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,698	2.47
ユニオンツール株式会社	1,508	1.38

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2018年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [TEL] ☎ 0120-232-711 (通話料無料) [送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



会社概要

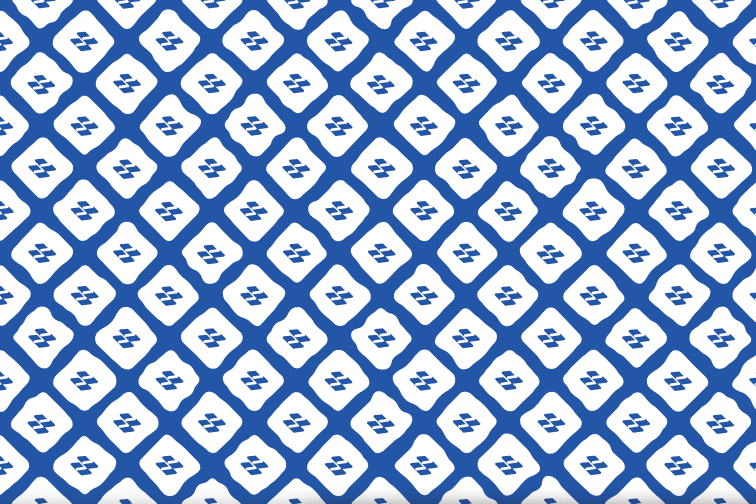
商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	1,124名(男性:889名 女性:235名)
所在地	<p>■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019</p> <p>■ 札幌事業所 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665</p> <p>■ 長岡事業所 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771</p> <p>■ 名古屋事業所 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 オーキッドビル 3階 TEL : 052-589-9045 FAX : 052-589-9025</p> <p>■ 大阪事業所 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-2-12 東芝大阪ビル 2階 TEL : 080-7739-8918</p>
事業内容	<p>情報処理システムに関する</p> <p>■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務</p> <p>■ 設計、開発業務</p> <p>■ 運用管理、保守業務</p> <p>■ 調査、分析、評価および技術支援業務</p>

(2018年10月1日現在)

IRのお問合せ 広報IR推進室

Mail: ir@creSCO.co.jp
TEL: 03-5769-8058





東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

